

## No.13 人の口に戸はたてられない

熊：「何い、にやにやしているんでき？ なんか、隠してねえで喋ろ、やい！」

八：「喋ってもいいが、おめえ口が軽いからなあ」

熊：「こう見えても俺は男だ。喋るなって言われりゃ、背中断ち割られても、鉛の熱湯呑まされても喋るもんじゃねえんだ、この熊さんはよう。」

八：「じゃあ言うが、横丁の豆腐屋の嬢、間男してんだ。」

熊：「へえ、あのかかあがねえ？で、相手はだれだい？」

八：「建具屋の半公よお。決して人に言うんじゃねえぞ。」

---

吉：「おい、熊公、さっきから一人でニヤニヤして、おめえ何か隠しているな。ここで吐いちまいな。」

熊：「吐いてもいいが、おめえ口が軽いからなあ。」

吉：「言わねえ、俺は男だ、喋るなって言われりゃ、背中断ち割られても、鉛の熱湯呑まされても喋るもんじゃねえんだ。」

熊：「そりゃ、だめだ。俺もさっきそう言ったんだ。そう言いながら黙っていたためしがねえんだから。でも、いいか、横丁の豆腐屋のかかあが建具屋の半公と間男しているって、他人に言っちゃいけねえぜ。」

---

吉：「そうかあ、人は見かけによらねえからなあ。あのカカア

が、建具屋の半公とねえ？ 間男しているってえかい？？ いけねえ、うっかり大きな声で言ったら、与太に聞こえちゃったらしいぞ。おい、与太、おめえ横丁の豆腐屋のかかあの間男話聞こえなかったろう。」

与太：「いいや、聞こえちゃったぞお。でも、あたいは誰にも喋らねええ。男の約束だあ。」

吉：「えらいぞ。本当に誰にも喋るんじゃねえぞ！」

与太：「うん、分かった。」

---

与太：「おーい、豆腐屋のおじさん。オカラーつ頂戴」

豆腐屋：「与太かあ、えらいねえ。ちゃんとお使いができるねえ。大人になったからなあ。」

与太：「うん、あたいねえ、大人になったから、大人の話知ってた。」

豆腐屋：「なんだい、その大人の話ってえのは？」

与太：「うん、横丁の豆腐屋のかかあ、間男しているんだ。」

豆腐屋：「横丁の豆腐屋って、俺んどこじゃねえか？ ええ、一体その相手は誰だい？」

与太：「驚くな！建具屋の半公だい！でも、これ男同士の話だぞお。おじさん、他所へ行って喋っちゃいけねえぜ。」

豆腐屋：「ばっかっ！！誰が喋れるもんか！！」

与太：「？？？」